

平成26年12月19日（金）
芦屋市企画部企画課

第2回 文化振興審議会資料

（平成26年度第1回文化振興審議会の意見まとめ：25年度事業評価について）

1 文化事業について

- ◎美術博物館が実施した谷川俊太郎氏の公演会の人気が高くすばらしかった。
- ◎また、谷川俊太郎講演会に併せてアートバザールも開催され、市民の方が作ったクオリティの高い品が出展されるなど、文化度の高いイベントであった。
- ◎美術博物館の取組の一つとして、夏のハリウッドゴジラ上映時に、ゴジラ監督である大森一樹氏などにも着目したゴジラ展を展開するなどが、考えられたのではないか。

【阪神間の連携をテーマとした取組例】

- ◎西宮市や東灘にある酒蔵では、文化活動が活発に行われている。祿水苑白鷹では、西宮市在住のアーティストを活用したりしているが、芦屋は何が魅力で、何ができるかや、他市の観光客に芦屋に寄ってもらう方法をどうするかなど、検討すべきだと考える。
- ◎他市で活躍しているアーティストが芦屋で活躍していただけるような企画も一つである。

2 平成25年度事業評価について

(1) 評価全般に関する課題及び解決策（案）

① 現在の評価様式では重点施策等のメリハリが分かりにくい

◎現在の評価様式では、全体を概観できる状況ではあるものの、主要な事業がどれかなど、事業のメリハリ等が分かりにくい。プロジェクトに対する評価の仕組みが必要ではないか。ルーティンワークについては、手間のかからない評価の仕組みを検討すべきである。（改めて評価をする必要がない仕組みにするなど。）

② ①の課題に対する解決策（案）

- ◎全ての評価を一律で行うのではなく、主要施策をサンプリング的に評価する。
- ◎適正に事業を執行しているかどうかの評価（ルーティーン化）と施設単位ごとで今年の主要施策を評価するなどの2本立てによる評価。

③ その他の評価方法(案)

◎専門家に各種の事業についての評価を行ってもらう手法。あるいは、現地に出向いて施設側と意見交換をするなど。モニタリングによる評価方法。

(2) 評価様式における指摘等

① 修正する項目

◎修正前：実施した成果 → 修正後：得られた成果

② 良い点

◎「取り上げられたメディア」という評価項目を追加した点は良い。

③ 検討すべき点

◎評価票に「特記欄」を設け、一律的な評価項目にはなじまないが、PRにつながるような取組等を記載できるようにしてはどうか。(賞を取ったなど)

(3) 評価対象について

① 評価対象のとなる事業の単位について

◎記載されている各事業の括り方にバラつきがある。

◎施策目標やターゲットとしている分野が異なる事業ごとに、事業を細分化すべきである。(ルナ・ホール事業は詳細にすべき)

② ルナ・ホール等の文化ホールの評価について

◎貸館事業・自主事業部門・委託事業部門等に分けて評価を考えてはどうか。

→貸館部門は稼働率の上昇を目指す。自主事業部門では、福祉型の事業や、学校と連携した教育型事業など、収益よりも趣旨を優先した事業展開を目指す。委託事業では、収益に着目した事業を展開するなど、一つの施設で評価を括らない方が良い。

◎ルナ・ホールの事業について評価指標が記載されていない。(稼働率については入場者数などを指標とするなど)

◎文化ホールを知っているか、知らないかの認識度調査、もう一度行きたいと感じるかの親和度調査、参加した事業が良かったかどうかの満足度調査をするべきである。

(4) 指標について

① 考え方に関すること

◎各事業全てにアウトプットとアウトカムが並ぶのは、評価としてやりすぎではないか。

→アウトプットは前年と比較して、目標通りに事業が実施されているかどうかを判断する程度で良い。アウトカムは事業をいくつか束ねた形で指標化するという考えもある。ただし、施策単位や事業単位それぞれにおいてアウトカム指標は出るはずである。

◎イベント等でターゲットとした層の市民を分母に、参加者を分子とし、その推移を把握すれば良い。

◎**インプット：場を作る**、**アウトプット：物事を作る**、**アウトカム：変化を作る**

という考え方で整理することができる。思いがけない効果は特記欄に記載するなどしてはどうか。

② 指標の具体例

◎犯罪発生率

◎交通事故発生件数

◎芦屋のことを良いまちだと思っている市民の割合

- ◎学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合
- ◎ルナ・ホールがあることを誇りだと思ふ市民の割合
- ◎公民館の登録グループの割合（及びそのグループにおける参加者数）

③ 指標の抽出方法

- ◎来場者等，市民からアンケートを取って，満足度を測るべき。
- ◎アンケートを取る際は，施設満足度・事業に対する満足度・職員のホスピタリティの3つを聞くべき。また併せて自由記述欄を作ることも一つの案である。

(5) 評価票の書き方・活用方法等について

- ◎予算化あるいは実施決裁の際に，誰をターゲットとするかなど，目標を明確化して整理しておけば事業終了後の評価時の負担を軽減することができるのではないか。
- ◎指定管理者が運営する施設の評価について，公益の最大化を図るため，どういう仕様書・協定書を作るかという視点が必要である。教育施設であり，福祉施設である使命をどうやって説得していくか，そういった視点が必要である。
- ◎評価には，毎年の経常的な経営管理のために使うという側面と，何年かに1回，政策の見直しのための基礎資料となるという2つの性格がある。